

日先の利益にとらわれず 本質を理解して真摯に健康経営を貫く

株式会社 日硝ハイウェー

従業員に長く元気に働いてもらうための環境づくりとして、
健康経営を実践する日硝ハイウェー。
働く人とその家族、そして社会にとって
良い会社とは何かを真剣に考えて取り組んでいます。



専務取締役 馬場 隆司氏

三重県津市に本社を置き、トラック運送や物流センター運営などを行う日硝ハイウェー。関東一中京間の24時間体制輸送を始め、全国19カ所に営業所を展開。2021年に「働きやすい職場認証制度 1つ星」や「三重とこわか健康経営カンパニー2021(ホワイトみえ)」の認定を取得し、「みえの働き方改革推進企業登録制度」へも登録。2022年には経産省の健康経営優良法人大規模法人部門の認定を取得しています。

設立 1967年6月
代表者名 代表取締役社長 杉本健司
社員数 661名(2022年7月現在)
事業内容 一般貨物自動車運送業
HP <https://www.nhw.co.jp>



目的をぶらさずまっすぐ取り組む

「健康経営優良法人」を取得するメリットとして「企業のイメージアップ」や「採用時のアピールポイントになる」などの効果を実感されている企業も多くある中、日硝ハイウェーでは「それらの効果は健康経営を進めていった結果として、あとから付いてくるもの」と考えています。「それ自体が取り組みの目的ではなく、目指しているのはあくまで世の中にとって、働く人とその家族にとって、良い会社になること」と話す馬場様。

同社では、全国19カ所すべての事業所に血圧計を設置。まずは自身の血圧を日々確認することで、健康に興味を持つもらうことから取り組みをスタートしました。また、ドライバーの健康意識を高める取り組みとして、東京海上日動が発行している健康情報チラシ「健康アップ通信」も活用。当初はプリントアウトしたものを各事業所に

配布していたそうですが、置いておくだけでは見ない人も多かったといいます。そこで、従業員一人ひとりの手に届くようにと、毎月の給与明細とともに配布することに。これによって従業員本人はもちろん、その家族にも情報を受けられるようになりました。

幹部社員には、毎年1月にある来期の運営方針を発表する場で、社長自ら「人生100年時代、定年後も働き続けてもらい、会社と従業員がお互いに支え合うために、会社としてしっかり健康をサポートする」という健康経営の重要性を語っているそうです。



血圧測定
血圧計を設置し、いつでも使えるようにしたことで、従業員の健康意識が向上。

グループ会社へも健康経営を拡大

今後、さらに内容の濃い健康経営に取り組んでいきたいという日硝ハイウェー。馬場様は「社員のストレスチェックなども行っていますが、今はまだやっているという事実があるだけ」と話します。取り組みの結果を受けて、次の施策へと発展させていかなければ、本当の意味での健康経営にはならないと考え、各取り組みの意義や目標値、そしてその結果をホームページで公開することも検討しているそうです。健康経営に対する全社の意識を一層高めていき、ゆくゆくは健康経営の考えをグループ会社にも広め、健康経営優良法人の取得を進めていきたいと語ります。



◀「カロママ プラス」アプリ
AI管理栄養士による健康管理アプリも導入。



▲朝の体操風景
始業前には各事業所で体操を実施。
短い体操でも毎日続けることが大切。



打ち合わせ風景
健康経営推進チームでは、健康経営優良法人だけでなく様々な認定や制度について調べて活用しながら、より良い職場環境の構築に取り組んでいる。